

国際融合医療協会設立要旨

国際融合医療協会（Association for International Integrated Medicine）は、東洋の全身的医療と西洋の各臓器および精神医療とを融合し、総合的医療を確立することで、人類の 7 割が依存している民族伝統医療の近代化を目的として設立したものである。

東洋医療には、心身統一のための日本の禅的瞑想、中国の気功、印度のヨガなどがあり、伝統医療の薬用生薬および補助食品などは、精神安定、不定愁訴である悪寒、ほてり、倦怠感、不明熱、孤独感などの治療と、体力および気力増進、免疫力強化や地域特有な疾病への対処などが可能であるが、証拠に基づいた医学的研究（EBM）の結果を近代薬学により分析し解明することが必要とされる。

一方、西洋医療には、予防ワクチン接種、全身麻酔、放射線療法、化学療法、抗生物質、創傷治療および近來発達した内視鏡、経血管手技、僅少侵襲手技、臓器移植などがあり、遺伝子治療、ロボット遠隔治療および再生医療が開発されつつあるが、心身一体の全身的治療には欠陥がみられる。

東洋の日本漢方、中国伝統医学（TCM）、印度アユルベーダと西欧の近代医療を融合するには、共通の医学用語を必要とするが、東洋医療では古代からの世界観や疾病定義が未だに使用されており、それらの用語の近代的解釈による統一が必要である。

近代西洋医療と東洋伝統医療との長所を取り入れることにより不適宜、過剰医療を廃することは先進国および発展途上国の医療費の削減と医療の普及に繋がり、多くの人類の健康福祉増進に貢献できると信ずる。

本会は、世界の医療・福祉関係者を一堂に会し国際年次会議を開催して諸国の民族医療の実態を紹介し、東西医療の融合により総合的な医療を確立することを目的とするものである。